

63. 不登校生や通信制高校生等の 学習支援及び進路等の相談

グループ名 学習支援悠遊
代表者 尾崎有吉



① 活動の目的

学校に在籍するも何らかの理由で登校できなくなっている方、何らかの理由で在学も就職もしていない方、通信制の高校に在学はしているも単位修得に困難を感じている方などが集い・学び、或いは将来を考えることができる場を提供し、支援することを目的として、主として高校教職にあった者がサポーターとして活動してきました。

② 活動概要

活動場所としては、宮崎教室は別に居所のある方の持ち家を借り、都城教室は都城市が管理している学習センターを借りました。

我々の教室は、支援を求めてこられる方々にとっては出入り自由になっていて、みっちり3時間近くおられる方もいらっしゃるし、1時間程度で帰られる方もいらっしゃいます。また、アルバイト等で終了30分程度前においでになる方もいらっしゃいました。

また、学年、進み具合、学習教科等がそれぞれ異なりますので、サポートは原則マンツーマンで行わざるを得なかったです。ある意味そのことでコミュニケーションがうまく行ったという面もあることは否めません。

宮崎教室では水曜日と土曜日の週2日（15時から17時まで）、都城教室では月曜日から金曜日まで週5日（10時から12時までと13時から15時まで）、いずれも原則2人をサポーターとして配置して活動にあたりました。上記のように、生徒さんの都合に合わせて早めに始めたり、時間を延長したりしてきました。

参加者は小学生から高校生まで他学年にわたりました。特に、宮崎教室においては多いときには6名ほどの方が学習に見えたので、3人体制で対応せざるを得ない日が多くなりました。

いずれの教室においても、毎月サポーターの定例会を持ち、学習者についての共通理解を図りました。



学習支援の内容としては、在学している学校の授業で理解できていないところの説明の補充や通信制の生徒さんのレポート作成のお手伝いなどから上級学校進学のための演習のサポートまでを行いました。

相談活動については、人間関係の悩みから仕事上(アルバイト)の困難な事柄の悩みまで、基本的には聞き役に徹することを根底において話を聞いて、必要最小限の感想を述べるようにしてきました。

両教室とも、飲み物等を準備し、リラックスできる教室内の雰囲気づくりに努めたつもりです。

その効果もあって、私どもの教室を契機に民間の学習塾に通うことができるようになった方や、教室へ入ることができなくて相談室登校しかできなかった方が無事高校進学を果たされたり、通信制高校を無事卒業されたりしました。



結果的に、宮崎教室では年間 94 日教室を開いて、延べ 251 人に対応することができました。また、都城教室では年間 214 日教室を開いて、延べ 205 人に対応することができました。

③ 決算報告書

今回、大同生命厚生事業団の助成金については、主として、宮崎教室の活動の助成に使わせていただきました。サポーター一人について、1日500円の交通費補助を行っています。

収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
	自己予算	71,000円
支 出	宮崎教室借用料(500円×94日)	47,000円
	サポーター交通費補助(500円×248人)	124,000円
計		171,000円